

田村市を語る

皆さんの声を市政に生かしていきたい。
市民の代表を招き入れ、
「座談会」を開きました。
みんなでさらなる幸せな暮らしに向かって。



Talking about Tamura city

「座談会」出席者

 安田瑞季さん 船引高等学校生徒会長。2年生。大越町在住。	 大山洋子さん 3歳と1歳のお子さんを育児中のお母さん。船引町在住。	 久保優司さん 岩手県から田村市に移住。ツリークライミング®クラブ「どんぐりの芽」代表。ふくしま中央森林組合都路事業所勤務。都路町在住。	 石井修一さん 絵本などの書籍や化粧品、雑貨等を販売する「石川屋」を経営。福島復興産業人材育成塾第1期卒業生。常業町在住。	 蒲生 誠市さん 野菜、米、イチゴ等を栽培し、直接販売を行っている農業者。滝根町在住。	 本田 仁一 (田村市長)
--	---	---	--	--	--

●産業

市長 皆さんの声を市政に生かしていきたいと考えていますので、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせください。

蒲生 私は曾祖母の代から、自分たちがつくった野菜を自分たちで直接販売してきました。年間を通して、イチゴを中心にキュウリ、トマトなど、28、29種類を栽培しています。安全でおいしく「我が子に食べさせたい」と思える野菜づくり・米づくりに取り組んでいます。

久保 私は県外から田村市へ移住してきました。阿武隈山系の山並みは本当にすばらしいですね。林業を通して、それを後世に伝えていきたいと思っています。

移住した当初は、福島県には「宮城の牛タン」や「盛岡の冷麺」のように県の代名詞になるような料理や特産品が



ないと思っていました。でも、地元の人からいただいたお米や野菜を食べるうちに、特産となる料理をつくる必要のない土地であることに気付きました。お米もおいしいし、野菜もおいしい。素材そのものがとてもおいしい土地なのでですね。

市長 市では、農業と地域づくりをセットでやっていただけの人や地域を募集していません。消費者が買いたいと思えるような魅力的な商品をつくり、産業として収益を上げられる方もっといるはずですね。そうした方々に活躍していただけるようなきっかけづくりをしていきたいですね。

林業については、田村市をはじめ、阿武隈山系の7割は森林です。それをうまく活用して地域づくりをしていくとらと考えています。

石井 絵本は子どもが生まれて初めて触れる本。大切なアプローチを「石川屋」からしていただけたらと思っています。消費者の買いたい物の仕方が多様化しています。大型店で買いたい物をする人もいれば、インターネットショッピングを利用する人もいます。消費者の買いたい物の選択肢に、私たち小さな小売店を加えてもらうためには、どうしたらいいのか。どんなふうに分店・ネットの特色を出し、大型店やネット

市長 ショップと同じ商品にどう付加価値を付けていくか。それを考えながら、絵本を販売しています。

市長 商店街の活性化のためには、何が必要だと思いますか。

石井 お店を始める人が挑戦しやすい環境づくりではないでしょうか。店舗経営を始めたとき、資金に難しかったり、一歩を踏み出す勇気が出なかったりしている人たちがいます。今、問題となっている空き店舗を、もう一人のために活用できないか。お店を経営したい人たちが気軽に利用できるモデル地区が市内にあるから、夢への一歩も踏み出しやすくなりますし、まちの賑わいにもつながっていくと思います。

もう一つは田村市ならではのマルシェの開催です。森林資源が豊かで、おいしい野菜やお米が獲れるという特色を

生かし、商業と農業、林業と商業など、異業種がコラボレーションするマルシェを開けたらいいですね。他の地域のマルシェに参加して他の出店者や地域の人と交流し、田村市の特産品を知ってもらったり、田村市のマルシェをPRしたりすることも大切だと思います。

市長 イベントと地域産業が結び付くことで、まち全体が盛り上がりそうですね。蒲生さんのご要望をお聞かせください。

蒲生 田村市は5つの町村が合併して誕生しました。皆さん、自分が住んでいる地区のことはよくご存じですが、他の地区のことはあまりご存じないようです。「田村の良いもの100選」のようなものをつくり、PRしてもらえれば、他の地区の特色や特産品に対する理解が深まりますし、市外へのアピールにもなるのではないのでしょうか。

市長 今後、田村市内で栽培されているさまざまな作物で「田村産のナンバーワン」を紹介するコンテストを開催したいと考えています。お米は食味が数値で出るので、「田村市のお米は全国と比較してもひけをとらせませんよ」と売りとするポイントを積極的にアピールしていきたいですね。

●子育て

市長 大山さんは、子育て支援センターをよく利用されているそうですね。

大山 子育てについて情報や知識がなく、不安でいっぱいだった時期に知り合いから教えてもらいました。船引駅前の狭い通りにあるのですが、中はとても広くて、保育士さんが常駐しているので、子どもを安全に遊ばせることができます。ずっと子どもの相手をして



いると、ときどき無性に大人と話したくなります。支援センターには、同じように子育て中のママたちがいるので、悩みを話したり、相談したりできて、気持ちも楽になります。そうした部分でも助かっています。



市長 子育てに関して、市への要望はありますか？

大山 ぜいたくかもしれませんが、支援センターで託児をしてもらえたら、とても助かるのですが、子どもを預かってくれる施設はいろいろありますが、利用するためには事前に申請しなくてはなりません。急な用事ができたとき、いつも利用している支援センターの先生に、1、2時間でも預かってもらえると助かりますし、安心して用事を済ませることができそうです。

市長 市でも、子どもを預かってくれる施設をこれまで以上に増やしたり、お子さんを預かってほしい人が来たときは、受け入れる体制を整備したりしたいと考えています。行政はサービス面では民間にかないませんから、民間にお願いすることも考えています。

久保 女性が無理なく子育てと仕事を両立するためには、職場の近くに女性が安心して子どもを預けられる環境をつ

久保 中小企業であっても、市のサポートがあれば、社員が働きながら子育てする環境を整備する会社はあるのではないのでしょうか。

市長 お母さんたちが「働きたい。子どもを預けたい。でも、預かってくれる場所がない」とならないように、子育て環境を整えなくてはなりません。「具合が悪い子どもでも預かってくれる施設がほしい」という要望もたくさん頂戴し